

続く停電 ぐったり

風呂も冷蔵庫も水道も…

台風24号の影響による停電は一日も県西部を中心に続き、人々の生活は多大な不便を強いられている。風呂に入れない、冷蔵庫が使えない、水道が出ない。いつもは何げないことだけに、困惑が広がっている。

一方で電力会社による復旧作業も続いている。
(糸井 詢子、夏目 貴史、広田 和也) 〇面参照



復旧急ぐ

①停電で信号機が消え交差点を徐行しながら通過する車両＝2日夜、浜松市中区中沢町で
②台風で倒れて電線にかかった木を取り除く中部電力の関係者＝2日午後、静岡市葵区新聞で

臨時の携帯電話の充電場所となった浜松市中区役所では、自宅が停電し、困った市民らが電源を求めやってくる。中区相生町、会社員柏原明日翔さん(26)は「停電の

影響で湯沸かし器が壊れ、お風呂に入れない」と困惑。冷たいシャワーで済ませる日々で「夫はボディーシートで体を拭いて済ませていた」と疲れ切った様子だった。中区西伊場町、公務員加藤奈美さん(53)は「冷蔵庫で保管していた食料が停電のせいで、傷んでしまった」と落胆。「ガスは通るので料理はできるが、換気扇が回らないので、油が飛ばない料理を作っている」と話した。

磐田市内の集合住宅では、受水槽の圧送ポンプが停電で止まり、一日未明から断水が続いている世帯が数多くある。市は、応急給水所の開設や給水車を使って受水施設に給水するなどして対応している。同市見付地区に開設している応急給水所では、二日夕までに、約六十世帯が利用。市によると、市内で水道管の破断などはなく、断水しているのは受水槽がある集合住宅などで、世帯数は把握できないという。約二十世帯が同居する賃貸住宅に住む五十代主婦は「停電と断水が続き、風呂も果てない。復旧の見通しが立たないと聞き、実家や友達の家を借せている住民も多い」と話した。一方、中部電力は、静岡市葵区新聞の山間部での復旧作業を、報道陣に公開した。

倒木で現場は多くの電線が断線しているが、山道は高所作業車一台がギリギリ進めるほどの狭さ。土砂崩れで路面状態も悪い。電線に引っかけた倒木を見つけたら、作業員は高所作業車で高さ十層ほどまで上がり、チェーンソーで切り落としていった。作業員によると、本来は場所を下見して必要な機材をそろえて作業にあたるが、「被害場所が多くて下見する時間がなく、その場で判断するしかない。(倒木の撤去作業は)一日七、八件が限界」と話した。

湖西2カ所でシャワー無料
カレー炊き出しも
停電が長引く湖西市内では二日、公共施設のシャワーが無料開放され、ポランティアによる炊き出しが実施された。湖西市体育協会は管理する新居体育館、湖西運動公園に設置された男女一基ずつのシャワーを無料で開放した。担当者は「数に限りがあるが、困っている人にぜひ使ってほしい」と話した。停電の復旧まで実施され、新居体育館は午前八時～午後九時、湖西運動公園は午前八時半～午後九時に利用できる。NPO法人「3ボロん湖西」の呼び掛けて集まった女性約十人が夕方から、同市の新居地域センターなど二カ所でカレーの炊き出しをした。六百食を用意し、大人は二百円、高校生以下は無料で提供した。訪れた同市新居町の会社員、中島茂光さん(60)は「明るい場所が温かい。飯を食べられるのはありがたい」と話した。(片山さゆみ)

電線に飛来物、シヨートか

台風24号に伴う県内の大規模停電を巡り、静岡理工科大(袋井市)の中田篤史准教授(電気工学)は二日、停電の要因について本紙の取材に対し「強風で飛ばされたトタンなどが電線や変圧器にあたり、シヨートが起きた可能性がある」との見方を示した。中部電力が二日の記者会見で説明した内容にも合致している。中田准教授は、袋井市の自宅が停電した九月三十日深夜、シヨートが起きるときにみられるオレンジ色の光を各地で確認。家庭や事業所などに電気を送る「配電線」が強風や倒木で切れた影響のほか、トタンや針金などの飛来物を問題視している。対策として、電線の中地化は費用がかかり、地震などの復旧時に課題もあるとして「物が飛はないようにすることが肝心だ」と話した。

復旧に時間がかかる理由について「地面や民家へ漏電しないよう、断線がないことを目視などで確認して送電する必要があり、人手がかかる」と説明した。(古根村 進然)

